

【基調講演 3】

テーマ：「大分から広がる人工衛星打ち上げ関連ビジネスの可能性について」

講演者：新谷美保子（一般社団法人スペースポートジャパン 理事）

【講演の概要】

- ・ 100年で飛行機ができ、人が自由に行き来できるようになった。1900年から人口増加やイノベーションにより、人間が産業革命を起こしてきた。
- ・ 宇宙で人が暮らすことは現実になる。火星には 2060 年に住む計画がある。これからの 100 年はこれまでの倍速で発展、進化していく。
- ・ イーロンマスク、ジェフベゾスは宇宙関係、通信インフラ整備（衛星を複数打ち上げて、6G次元のネットワーク整備）で競い合っている。これから人類は地球上の環境を変えていく。
- ・ 宇宙関連の法律は 1960 年代から国連が 4 条約を整備したが、その後が進んでいないため、4 条約を批准している。
- ・ 日本は、2016年に2法が成立している。宇宙活動法と衛星リモートセンシング法、2021年に宇宙資源法が成立した。世界4ヶ国目である。
- ・ 宇宙ビジネスに特有のリスクがある。理由は①宇宙環境の過酷さ、②事例の積み重ねがない③宇宙空間に故郷がない。このため、リスクを関係当事者間で誰にどう分配するかが大切。
- ・ 宇宙ビジネスで、40兆円のうち、日本はまだ官需がほとんど。これからスタートアップの民需が延びてくる。
- ・ 宇宙に関する新規事業をアイデアレベルで民間企業とディスカッションし、上手くいきそうであれば、実証レベルに行く。
- ・ 宇宙は場でしかなく、色々な産業分野と連携し、事業を行っている。
- ・ 日本では有人宇宙飛行ができない。そのような中で取り残されないように、日本も離発着ができるよう、宇宙関連産業を振興するためスペースポートジャパンを立ち上げた。

- ・日本では宇宙港という要件はないが、アメリカなどは要件を満たしたところが宇宙港としている。日本では水平離着のスペースポートはまだない。長期的には2地点間飛行が見込まれる。
- ・持続可能な宇宙であるために、秒速何キロで動く宇宙ゴミ（デブリ）をビジネスで解決していきたい。JAXAと日本企業がこれを除く事業（CRD2）を検討している。
- ・衛星打ち上げ射場の不足・・・衛星コンステレーションとその維持に必須である。グローバル全体で何が良いかを模索すべき時。